
事業環境と2012年3月期業績予想修正

取締役副会長 常石 哲男

2011年8月1日



TOKYO ELECTRON

CORP IR/August 1, 2011

事業環境



▶ 半導体設備投資

世界経済の不透明感に加え、PC、スマートフォン、タブレットなどの半導体関連製品市場が、年初の期待値と比べると下振れ感が顕著となり、ここに来て需給ギャップが大きくなっている

結果、半導体価格の下落、半導体工場の稼働率低下などが起きており、半導体製造装置市場の回復にはしばらく時間を要す見込みである

以上より、半導体設備投資規模は、期初予想の昨年度(FY)比10%程度増加から、現状では逆に10%程度減少の可能性がある

なお、2012年に向かっては、Windows8、iPhone5や新タブレット等のさらに進化するモバイル新製品に加え、オリンピック、米国大統領選等の半導体需要を後押しする景気向上材料が期待される

▶ FPD設備投資

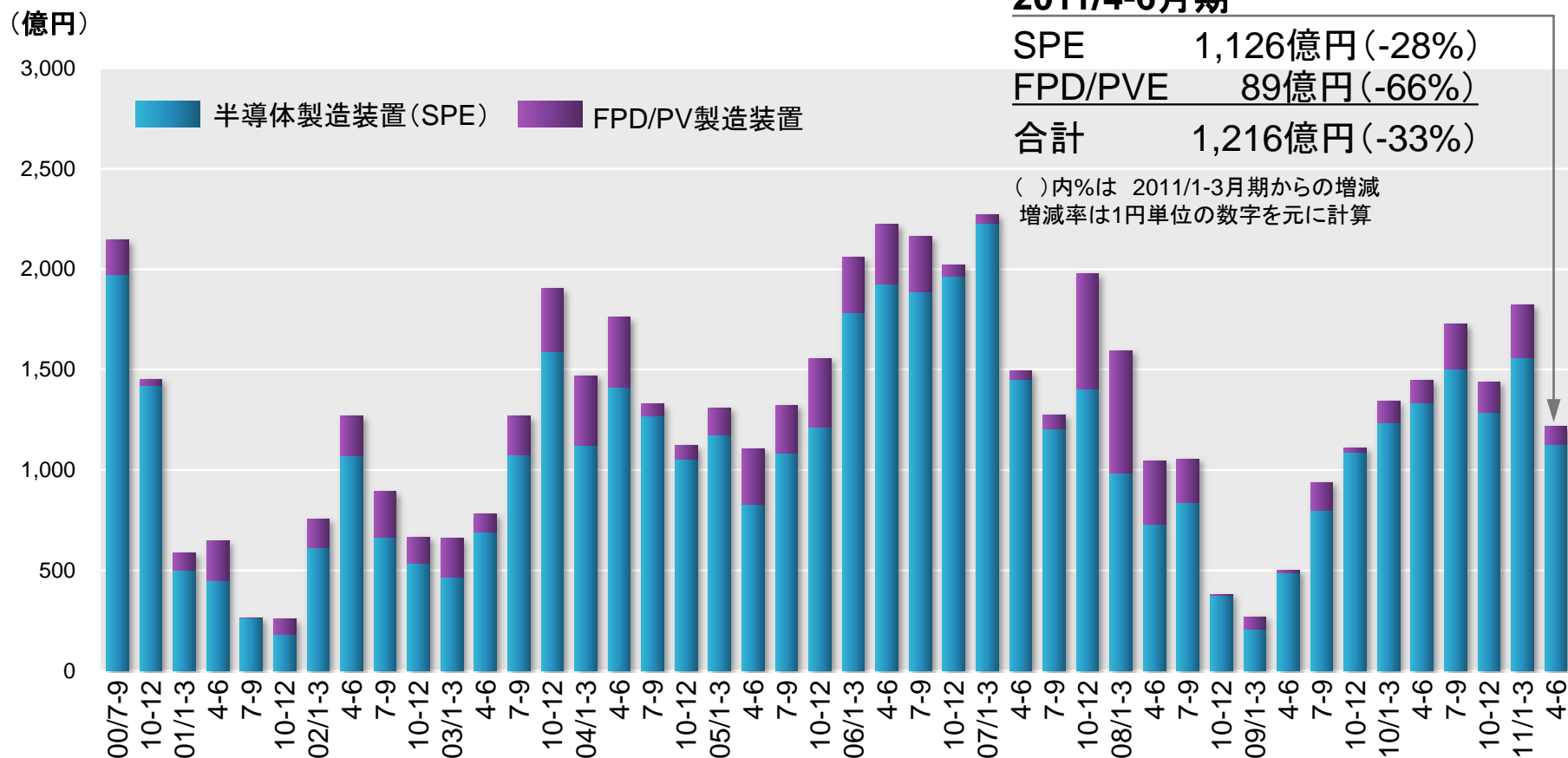
大型パネル向け投資は依然として低迷し、中小型パネル投資はある程度期待するものの、全体の設備投資を押し上げるほどの規模ではない

▶ PV設備投資

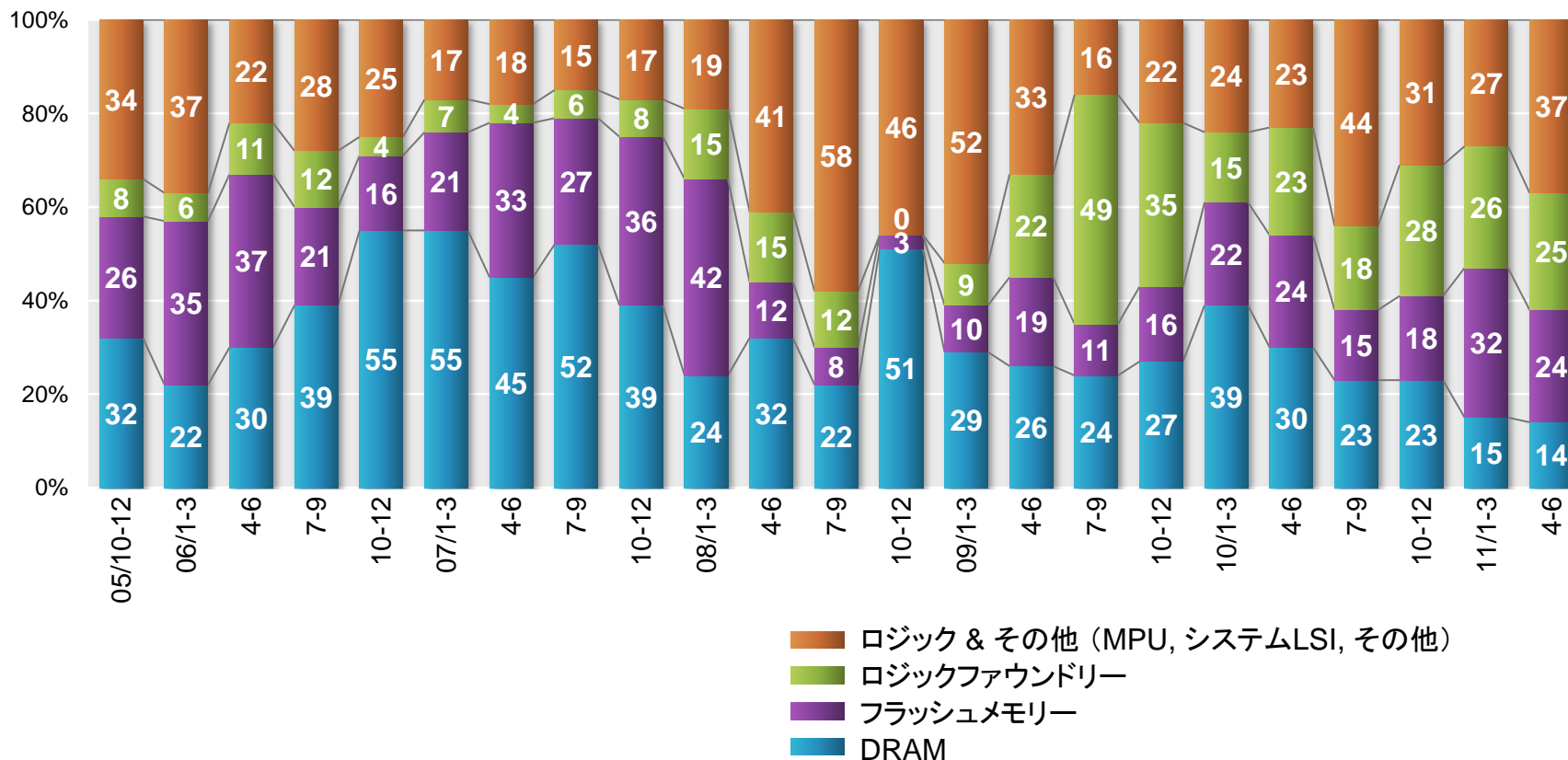
太陽光エネルギーに関しては、世界的にブームとなりつつあるが、現在の主流は単結晶シリコン系や化合物(Cd-Te)系である
薄膜シリコン系の普及に関しては、中期的な成長期待は大きいですが、コストを含めた更なる性能向上が必要

FPD: フラットパネルディスプレイ PV: 太陽電池

四半期 受注額



四半期 アプリケーション別SPE受注



グラフは装置本体受注における構成比を示しています

2012年3月期 業績予想修正



2012年3月期 業績予想修正

(億円)

	FY2011	FY2012					修正額
		上期	下期		通期		
		5/13予想	5/13予想	新予想	5/13予想	新予想	
売上高	6,687	3,350	3,950	3,050	7,300	6,400	-900
SPE	5,113	2,530	3,060	2,170	5,590	4,700	-890
FPD/PVE	667	380	380	370	760	750	-10
EC/CN	902	440	510	510	950	950	-
その他	4	-	-	-	-	-	-
営業利益	978	350	650	150	1,000	500	-500
下段: 営業利益率	14.6%	10.4%	16.5%	4.9%	13.7%	7.8%	
税前利益	995	360	660	160	1,020	520	-500
当期純利益	719	230	430	110	660	340	-320
1株当たり配当金(円)	114	45	85	22	130	67	-63

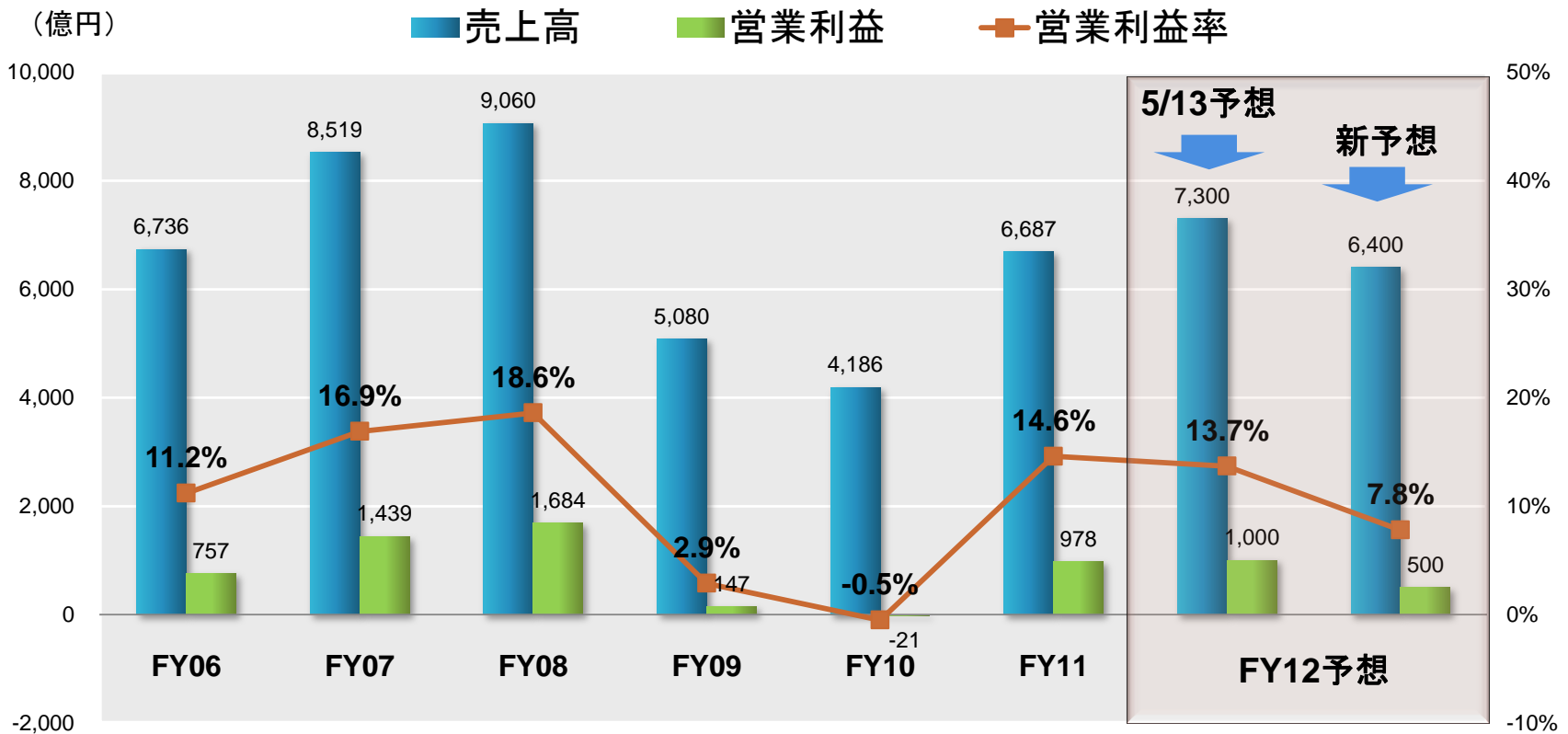
SPE: 半導体製造装置

FPD/PVE: フラットパネルディスプレイ及び太陽電池製造装置

EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク

SPE売上の見直しにより、下期業績予想を下方修正

連結売上高・営業利益率推移



サマリー

1. 震災の影響は軽微に留まり、1Q決算は好調に終了
2. 電子機器の伸びが期初想定よりも低下傾向にあり、環境の急変により、当下期の半導体設備投資が減速
SPE受注は短期的に調整する見通し
3. SPE売上の見直しにより、下期業績予想を下方修正
ただし、研究開発費等は高水準を維持する方針
4. 市場減速は短期的なもので、2012年前半には回復に
転じると予想

- 将来見通しについて

本資料に記述されている当社の業績予想、将来予測などは、当社が作成時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、経済情勢、半導体/FPD/PV市況、販売競争の激化、急速な技術革新への当社の対応力、安全・品質管理、知的財産権に関するリスクなど、様々な外部要因・内部要因の変化により、実際の業績、成果はこれら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

- 数字の処理について

記載された金額は単位未満を切り捨て処理、比率は1円単位の金額で計算した結果を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

- 為替リスクについて

当社の主力製品である半導体製造装置及びFPD/PV製造装置の輸出売上は、原則円建てで行われます。一部にドル建ての決済もありますが、受注時に個別に先物為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしています。従って、収益への為替レート変動による影響は極めて軽微です。

FPD/PV: フラットパネルディスプレイ及び太陽電池